菅改造内閣発足に当たっての麻生全国知事会会長記者会見の概要

【日　時】　　平成 22 年 9 月 17 日（金）15：30～15：43
【場　所】　　福岡県庁　8 階　会見室

（記者）
　先ほど内閣改造で閣僚の顔ぶれの発表がありました。全体の閣僚の顔ぶれを見て知事会長としての感想と、特に総務大臣の片山前鳥取県知事についての感想をお聞かせください。

（麻生全国知事会会長）
　全体の組閣の印象からいいますと、やはり非常に苦心した組閣だと思います。というのは、なんと言いましても民主党は政権を担当したのはここ一年です。そういう意味で大臣を務めた経験者が非常に少ない中で組閣をしなければならない。そうなりますと大臣としての新人を思い切って登用しているわけですが、それぞれ（新任の大臣の）皆さんがどの程度の実力をもってやっていけるのかというと未知数のところがあるわけです。そのような中、精一杯の適材適所を目指した組閣であると考えております。
　その中でも福岡県から自見金融・郵政改革大臣、新しく環境大臣として松本龍議員が入閣されました。二人の大臣を福岡県から送り出しており福岡県としては非常に喜んでおります。
　その中でもユニークとでもいいましょうか政治家でない閣僚として片山さんが総務大臣として入閣しています。我々が求めています分権改革、あるいは地域主権改革の担当大臣であります。片山さんは知事経験もありますので真の地域主権改革を断固実行することを期待しています。

（記者）
　代表選の後、菅首相は「挙党一致」と再三言われていましたが、今回の人事に関して小沢さんに近い人が優遇されていないということで、今後、党並びに内閣運営で懸念はありますか。

（麻生全国知事会会長）
　懸念はありません。もし仮に代表選挙の後遺症で内部がごたごたするということがあれば、直ちに政権運営は行き詰まります。それでなくてもねじれ国会の状態ですので、政権運営は苦労すると思います。そのような状態の中で内部にしこりが残ったことなどで一致団結が図れなければ、民主党という政権が行き詰まってしまいます。ですから民主党の議員の皆さん、党員の皆さんは内部

の事情を超えて団結して政権運営にあたらなければならないことは気が付いているはずです。それだけの自覚は民主党の中に十分あると考えています。

（記者）
片山さんについて知事はどのように見られているか教えていただきたいのですが。

（麻生全国知事会会長）
片山さんは、知事時代はどちらかというと独自性の強い県政を展開しておりましたし、その延長線で自分の考え方を入れた総務大臣としての仕事をされるのではないかと思います。
我々が抱えている問題はそんなに変わった種類の問題があるわけではありません。かつ、内閣の方針として地域主権戦略大綱は決められており、これを実行する閣議決定、党の大方針がありますし、地域主権関連 3 法案は既に国会に提出され継続審議となっていますから、閣僚、総務大臣としてこのような法案を成立させるという職責がありますので、(片山さんは) 全力を尽くしていくものと考えています。

（改造内閣への期待として）
私どもはかねてより申し上げておりますが、一つは経済問題です。経済はようやく円高対策について思い切った介入を行うということによって、急速に進んだ円高に歯止めをかけるということに成功しました。今後とも、断固として円高対策を続けてもらいたい。
それと同時に、就職問題です。高校生諸君、大学生諸君が卒業しても就職がないという状態になっています。我々は、つなぎの三ヵ月とか、そういった雇用対策は行いますが、本質的には、やはり経済を更に発展させて新しい雇用を生み出すということが不可欠です。本格的な経済対策を行ってもらいたいと思っております。
それと同時に、もう一つは、地域主権、地方分権、そして、それを通じての地域の活性化、これはひいては日本全体の新しい方向として、どうしてもやらなければならないことですから、それを確固とした決意を持って総理以下、やってもらいたいと思います。

（記者）
総務大臣のことでお伺いします。知事経験者が総務大臣になるのは、増田元総務大臣以来ですが、知事経験者だからこそ、こういうことに期待したいという点は何かありますか。

（麻生全国知事会会長）
　それは何と言いましても、地方行政、地方の抱えている問題、あるいはその可能性、そういったことをよく知っておられるということです。そこに私どもは大きな期待を持っていますし、それを十分開花させてくれると思っています。
　ただ、もう一つ、政治家ではないという点、知事経験者としての貴重な経験を持っておられるということは大きな力になると思いますが、一方で政治家、議員ではないというところを、どうやって補えるのか、何といいましても議員としての人脈などはないわけですから、これについては一段の努力が必要と思います。そういう意味では苦労されるだろうとも思います。

（記者）
　片山善博氏は外野の立場から、地方六団体、全国知事会に対しても総務省の天下り団体になっているのではないかという批判をされたことがありますが、その点については何かありますか。

（麻生全国知事会会長）
　それは極めて、視野の狭い見方だと思います。地方六団体の事務総長が総務省（出身）の方だからといって、知事会全体の活動が総務省に影響されるとか、あるいはその下請けのような力のない、独自性のない、自らの思考力を持っていない団体ということでは決してありませんから。我々は独自のちゃんとした活動を行っていますから。非常に、何といいますか、物事の極めて一面しか見ていない考え方だと思います。
　片山さんもいろいろなことを言われていまして、知事を務められている頃からいろいろなことを言われました。しかし、今度は評論家というか、外からいろいろと言う立場ではなくて、まさに大臣としての行政責任、政治責任を持つという立場になりますから、そういう立場で発言し、行動する。自ずと、いわば一介、一人の評論家時代とは当然違ってくる。また違ってこなければ、政治家、閣僚として十分活動できないと思います。

（記者）
　新しく総務大臣になられた片山善博氏と、なるべく早くに一度実際に会って。

（麻生全国知事会会長）
　それはやらなければならないと思っています。